

同窓会会報

第39号

昭和61年8月5日

発行所
茨城県東茨城郡
内原町龍岡5965
鯉淵学園同窓会

電話03-03-022-39-2811
印刷所
佐藤印刷株式会社

御挨拶



松本正雄

はからずもこの四月一日付で学園長に就任致しました松本正雄でございます。遅ればせながら、同窓の皆様にご挨拶申し上げたいと思っております。

はじめに私の略歴をご披露しておきますが、私は昭和十八年にいわゆる学徒出陣で途中兵役に服しましたけれども、昭和二十年九月に大学を卒業し、当時の農林省園芸試験場種苗育成地（現神奈川県園芸試験場のところ）に就職致しました。つづいて新しく開設された同試験場九州支場（現野菜試験場久留米支場）へ移り、明治以来軍靴で固められた旧工兵連隊の練兵場跡を開墾するという建設作業の傍ら、野菜の品種改良の業務に従事しておりました。昭和二十七年秋には東京農工大学農学部へ転勤することになり、爾来今年三月に定年退官するまで三十有余年同同窓会に勤めさせて頂きました。こ

の間教育研究上の役職を若干経験致しましたので、とくに高等教育に関する知見を得たつもりでございます。しかしながら、教育の仕事は誠に奥深いものがあり、その真髄にせまるには日々の絶えざる練習が必要であることを痛感している次第であります。

したがって、本学園の学園長をお引き受けしましたけれども、先ずはなにを以ても学園の学風や雰囲気、教育理念についての研鑽を積み重ねなければならないと思っております。目下、学園のおかれている立場を十分理解するよう努め、落着いて勉強のできる環境を整えているところでございます。

ご存知のとおり、初代学園長の小出満二先生は私が勤めておりました東京農工大学の前身である東京農林専門学校を創設しておられました。先生は大変リベラルな方として有名でありま

すが、府中（東京農専の所在地）に在職中は丁度戦争中でありましたけれども、学生をこよなく愛し、とくに配属将校の主張する無理難題に対しては敢然としてたたかわれ、学生の自由と平和な生活を守られたと伺っております。したがって、当時の学生が先生を慕う心は大変なもので、今でも同窓生は折にふれて先生の偉大なお人柄について語りあっております。先生は立派な農学者であると同時に素晴らしい教育者であったと信じております。私が縁あって、この小出先生が最初の学園長として勤められた本学園に奉職することは誠に光栄なことと存じております。

また、学園創設以来小出先生のアシスタントを務められ、二代目学園長になられた鞍田純先生もまた本学園の教育基盤を確立された偉大な農学者であり、その後の秋浜浩三先生、吉川直行先生と歴代の学園長は、いずれも私の尊敬する先輩であります。これらの方々の後塵を拝する私はその責任の重さをひしひしと感じているところでございます。

申すまでもなく、農業の後継者育成の仕事は、本学園が第一義的に取り組むべき課題でありますので、厳しい環境のなかにおかれているとはいえ、なにを以ても我々一同総意を集めて現在の社会に合致した教育方法を創意工夫せねばならないと考えております。

このために、昨年学園内に教育・運営等についての基本問題を討議する委員会を設置し、目下、鋭意検討を進めつつあるところでございます。大変な難問題でありますから、簡単に結論を導きだせるとは思いませんが、現在の本学園としては避けて通ることのできない重要な問題でありますので、奮迅の努力を重ねてゆく所存でございます。

なお、今年度より開設をみました普及専攻科は二十六名の学生が入学致し、開講に所定の授業を進めております。改良普及員資格の全員取得を願っております。ところでありますが、いずれに致しましても、地域社会におきまして先駆的役割を果たす指導者の養成もまた、学園の歴史に照らして一層の努力を致さねばならない重要な業務の一つだと思っております。

ここ二、三年学園への志願者が従来より減少気味でありましたが、本年は全国的に十八才人口が増えたこともあり、お蔭で百十余名の気鋭に満ちた新入生を迎えて、大変喜んでおります。来年度は本年以上に希望に燃えた優秀な青年が多数志願されることを期待しておりますが、このことにつきまして、は教務部長からも詳しくお願いに及ぶと存じますので、何とぞよろしくご協力願います。

いっぽう、建物施設等につきまして、は農水省はじめ関係方面のご援助により整備が進められておりますが、今後

は老朽化した施設の更新を計らねばならないと思っております。なお、この度は同窓会の四十周年記念事業の一環として旧事務室・教室等の建物修理保存のために多額のご寄付を戴きました。早速学園としては、外観はそのまま保存して、内部は最も有効に利用させて載けるよう改築修理を致すつもりで計画を進めておりますので、恐らく今年

中に完成するものと思っております。ほんとうに有り難いことと、心から厚くお礼申し上げます。
就任してなお日浅いため、抱負などを申し述べる余裕もございませんので、今後ともよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます、ご挨拶と致します。

第十七回同窓会大会報告

四月十九日、雙洲学園五番教室に約六十名の代表者が集り、第十七回の同窓会大会が開催されました。

大会は先ず和田会長の挨拶、続いて議長に鈴木幹男氏（茨城九期）を選出書記に梅崎孝臣氏（茨城十三期）、議事録署名人に関正治（学園四期）渡辺正信（茨城七期）真下寿宣（茨城十一期）の各氏を任命して議事に入りました。

本大会の議題である昭和五十九・六十年年度事業報告並びに決算報告承認の件、昭和六十一・六十二年年度事業計画並びに予算の件、会則の一部改正の件、昭和六十一・六十二年度役員選出の件については、執行部の報告提案の通り承認可決され、推薦委員会により推薦された新役員が全会一致で承認されました。その大綱は次の通りです。
大会の途中、時間をとり、松本学園長よりご挨拶をいただきました。

また、懇親会の席上、本会として、学園永年勤続退職者、松川茂氏、大島威雄氏に対し感謝の記念品を贈呈いたしました。

一、昭和五十九・六十年年度事業報告
第十六回同窓会大会の決定に基づいて実施いたしました両年度の事業は次の通りであります。

- 一、会報の発行
第三十四号 昭和五十九年四月十四日
第三十五号 昭和五十九年十二月十八日

- 二、会員名簿の発行
第三十六号 昭和六十年六月二十五日

今年度末には発行すべく作業をすすめたが、整理に時間を要し、次年度に持ち越す結果になった。
三、雙洲学園歴史の編集発行
自治会、校友会、教授会等の関係資料をもとに、史実の抜き書きと整理を

行った。

四、学園に対する協力
学生募集、普及専攻科設置、国家公務員採用試験受験資格の取得等について種々の協力をした。

- 五、支部会への役員派遣
愛知支部会 和田会長
岐阜支部会 浦井常任委員
長野支部会 和田会長
岩手支部会 南教務部長
栃木支部会 桜井副会長
島根支部会 和田会長
山口支部会 高橋事務局長
岩手支部会 西村常任委員

- 六、四十年記念事業
① 育林事業
日立市小津山園有林三・三ヘクタールに、東京宮林局と分収造林契約を締結して、杉と松の植付をおこなった。造林に要した経費は四十年記念特別会計の通りである。

- ② 学園教育施設整備への支援
この件については、図書館両翼の木造建物二棟の改修を第一にあげ検討をすすめている。

- ③ 記念募金
昭和六十一年三月三十一日現在の募金状況は四十年記念特別会計の通りである。

二、昭和五十九・六十年年度決算報告
承認された昭和五十九・六十年年度の決算報告は別紙決算書の通りであります。

三、昭和六十一・六十二年年度事業計画

- 一、会報の発行
第三十七号 昭和六十年十二月十日
第三十八号 昭和六十一年三月十五日
第三十九号 昭和六十一年七月一日
第四十号 昭和六十一年十二月一日
第四十一号 昭和六十二年六月一日

- 二、会員名簿の発行
昭和六十一年四月発行
額値二、五〇〇円

- 三、雙洲学園歴史の編集発行
昭和六十二年三月発行
（貴重な資料の点検と編集協議を実施し発行する）

- 四、学園教育施設整備への支援と募金の継続
図書館両翼の木造建物二棟等の改修について、学園と協議の上推進する。
- 五、分収林の管理
- 六、学園への協力（学生募集他）

- 四、昭和六十一・六十二年度予算可決され昭和六十一・六十二年度予算は別紙予算書の通りであります。
- 五、会則の一部改正について
会則第二十七条 会員は毎年度の始め、会費一、〇〇〇円を納入せねばならない。を改め、「会員は毎年度の始め、会費一、五〇〇円を納入せねばならない」とする。（会費を五〇〇円値上げする提案が可決成立）

- 六、昭和六十一・六十二年度役員
会長 和田文雄 東京三期
副会長 鈴木光雄 茨城八期

2. 基本金会計

(1) 財産目録

	科目	金額(円)	摘要
資産の部	現金	225,076	学園総務部に保管 郵便局 57.58年度 30万 59.60年度 40万
	預金	1,500,000	
	貸付金	700,000	
	合計	2,425,076	
負債の部		0	
純財産		2,425,076	

(2) 収支明細表

収入の部

科目	金額(円)	摘要
前年度繰越金	63,076	
入会金	462,000	59年度 @ 3,000 × 79人 60年度 @ 3,000 × 75人
預金払戻し	1,100,000	
合計	1,625,076	

支出の部

科目	金額(円)	摘要
貸付金	400,000	
預金	1,000,000	
合計	1,400,000	

収支差額 225,076

3. 40周年記念特別会計(61.3.31現在)

(1) 財産目録

	科目	金額(円)	摘要
資産の部	現金	645,171	学園総務部に保管 内原農協80万 郵便局260万
	預金	3,400,000	
	合計	4,045,171	
負債の部		0	
純財産		4,045,171	

(2) 収支明細表

収入の部

科目	金額(円)	摘要
募金	6,782,270	519名
分収林補助金	443,850	
合計	7,226,120	

支出の部

科目	金額(円)	摘要
寮史編集	1,163,600	
育林事業	2,017,349	
預金	3,400,000	
合計	6,580,949	

収支差額 645,171

副会長兼 西村典夫 学園四期
 常任委員長 小林真吉 茨城四期
 常任委員 中村信夫 茨城七期
 常任委員 渡辺正信 茨城七期
 常任委員 市野沢弘 茨城十期
 常任委員 真下寿宜 茨城十一期
 常任委員 梅崎孝臣 茨城十三期
 常任委員 石橋貞良 東京八期
 常任委員 福丸博房 東京九期
 常任委員 石田善吾 東京十六期
 常任委員 学園在職会員全員
 地・小沼・入江・山本・浦井・掛田)
 (桜井・関・坪野・吉沢・高橋・枝川・菊
 監事 武内十郎 東京四期
 監事 砂田義雄 学園五期
 監事 本宮好美 茨城十二期

1. 一般会計

(1) 財産目録

	科目	金額(円)	摘要
資産の部	現金	61,783	学園総務部に保管
負債の部	借入金	700,000	基本金会計より借入れ
純財産		△638,217	

(2) 収支明細表

収入の部

科目	決算額(円)	予算額(円)	比較増減(円)
前年度繰越金	103,264	103,264	
会費	1,709,000	3,200,000	△1,491,000
名簿代	379,000	1,200,000	△821,000
その他収入	652,540	100,000	552,540
合計	2,843,804	4,603,264	△1,759,460

支出の部

科目	決算額(円)	予算額(円)	比較増減(円)
会報発行費	923,708	1,200,000	△276,292
名簿発行費	0	1,200,000	△1,200,000
通信費	168,820	250,000	△81,180
人件費	246,000	600,000	△354,000
事務費	143,115	120,000	23,115
会議費	481,042	200,000	281,042
旅費	493,070	350,000	143,070
40周年事業費	326,266	400,000	△73,734
予備費	0	283,264	△283,264
合計	2,782,021	4,603,264	△1,821,243

収入差額 61,783(次年度へ繰越)

昭和六十二年度学生募集のお願い

教務部長 西村典夫

三伏の候、皆様にはお変わりございませんか。お陰様で、私どもも大過なく日々の業務に精出しております。

早いもので、六十一年も半分を越してしまいました。その間の幾つかのニュースをお届けしながら、六十二年の学生募集について、倍旧のお力添えをお願い致したいと存じます。

一、六十一年度の入学状況

皆様のご協力のお陰で、本年度は久振りに入学総数においてほぼ定員数を確保することが出来ました。ほんとうに有難うございました。

本科Ⅰ一四八名の志願者の中から、園芸八十名、畜産二十四名、生活栄養十二名、計一六六名が入学しました。うち普通高校出身五十九名、農業高校四十九名、商工業高校ほか八名。全国各地にわたっておりますが、茨城県出身二十一名、福島九名、長野九名、沖縄九名が目立ちます。

普及専攻科Ⅱこの三月、本科卒の中から、園芸二十名、畜産六名、計二十六名が入学しました。

本科Ⅱもようやく学園生活に慣れ、専攻科生は国家公務員Ⅰ種(七月六日)、地方公務員上級(七月二十日)普及員

資格(次城は九月八、九日)と、採用または資格試験に取組んでおります。

二、基本問題検討委員会

昨年九月から「学園運営の基本方向の見直し」について、三小委員会を設けて検討が続けられ、この三月末に、池田理事長兼学園長に一応の中間報告を致しました。第一小委員会は「教育体制」学生募集問題、第二小委員会は「農場経営問題」第三小委員会は「学生生活問題」忙しい業務の間を縫って

会合を重ねましたが、結果はなかなか焦点を絞り切れず、随処に疑点を残しております。今後さらに詰めた段階で広報の機会をと存じますが、本件と連動させながら、次のような変更も進めました。

三、前期・後期制の実施

すでに生活栄養科は、栄養士養成の関係で「単位」の取扱いをしておりますが、今年度から農業科を含めて、四月～九月を前期十五週、十月～三月を後期十五週とし、学年暦を編成しました。単位制を表面に出してありますが、一般講義は十五時間、演習(数学・統計・外国語・卒業論文Ⅰ特研など)は三十時間、実験、実習は四十五

昭和61・62年度予算

収入の部

科目	予算額	前年度額	摘要
前年度繰越金	61,783	103,264	
会費	3,300,000	3,200,000	1,100名×3,000円
名簿代	1,250,000	1,200,000	500部×2,500円
その他収入	500,000	100,000	預金利子寄付金
合計	5,111,783	4,603,264	

支出の部

科目	予算額	前年度額	摘要
会報発行費	1,200,000	1,200,000	40万×2回 20万×2回
名簿発行費	1,200,000	1,200,000	1,000部×1,200円
通信費	250,000	250,000	
人件費	600,000	600,000	事務局長 1万×24 備 人 36万円
事務費	200,000	120,000	
会議費	400,000	200,000	大会 20万 役員会他 20万
旅費	400,000	350,000	
40周年事業費		400,000	
予備費	861,783	283,264	
合計	5,111,783	4,603,264	

時間をそれぞれ一単位としてまとめましたので、即座に単位換算が可能です。それにしても、年間各七十単位相当の学習は過重で、早い機会に改善を思っております。

四、各科、コース定員の変更

六十二年度学生募集から農業科を九十名に、生活栄養科を三十名にしました。実際には、すでに募集定員数と実入学は合わなくなっておりますが、単年度で全面改正することも困難な事情にありますので、今後の動静を見極めながら、時代の要請に即した学生の受入方法を模索したいと思っております。特に、一般の理事会の意向に副って、園芸コース・畜産コースを前面に出さず、農業科として受入れ、水稲・麦・大豆な

どの作物・やさしい・果樹・花・牛・豚・鶏、さらには農業経営や農業機械の利用といった具合に、また生活栄養科も栄養一本でなく、住居や衣服、家庭生活など、広い分野にわたって、それぞれ関心のある若人の募集を喚起できないものかと思案しております。

五、教職員の移動

昭和二十四年来、農業協同組合論を中心に講義下さった宮島三男先生は年間通してはおいでにならないことになり、その代りに、中央協同組合学園の小口芳昭学園長をはじめ、宮島先生を含めて、全学園の先生方十名程で、それぞれの専門講義を分担して下さることになりました。また三十二年来、日本農業論などを担当下さった築島

宏先生はご退職になりました。

一方、前号でお知らせしました、松本正雄学園長がご赴任なされ、普及専攻科主任として飯塚節夫先生（前茨城県改良普及課長）を迎えました。また教務部主事として小泉宗一さん（法学士）を採用、とかく疎く成易い一般教養の分野もカバーして欲しいと期待しております。その他、普及専攻科絡みで数多くの新設科目の分担や変更、外来講師の委嘱も致しました。こうして見ますと、昨年来の諸々の動きは、昭和四十五年の三ヶ年制移行時に匹敵する一大変革であったように思われます。六、六十二年度学生募集のお願い
今年は例年より、思い切って早くか

昭和六十二年度本科学学生募集要項

- 一、募集人員
本科（三年制）
- ① 農 業 科（男・女とも）九十名
 - ② 生活栄養科（女子のみ）三十名
- 二、出願手続
出願者は下記書類に選考料を添えて
鯉洲学園教務部に提出すること。
但し沖縄県在住の出願者は沖縄県宜野座村字宜野座一六六〇、沖縄県農業協同組合中央会農場教育研修所教育部に提出すること。
- ① 入学願書

ら募集要項の検討を始め、六月早々に教授会、全下旬には理事会の了承も得て募集を開始しました。学園運営に纏る諸問題は急に解消するものではありませんが、何は採措いても定員の確保は至上命令とも申せましょう。全国の高校をはじめ、農協、普及所その他、関係各位には広く学園要覧や関係書類を送付して依頼しますし、新聞、雑誌等にも広告記事を掲載しますが、例年取分けてお願いしたいのが皆様のお力添えであります。ご多用のことと存じますが、重ねてよろしくお願い申し上げます。未筆ながら、ご健康に留意下さり、一そうのご活躍をお祈り申し上げます。
(六十一・七・十五)

- ② 身上調査書 本学園所定の用紙を使用のこと。
- ③ 健康診断書
- ④ 課題による作文
- ⑤ 高等学校の調査書（特に各科目の評定、学習成績評、成績段階別人数、所属する科（学年）の総学生数、行動および性格の記録等を明確に記入すること。）
- ⑥ 現住地の市町村長または農業協同組合長などにより、家庭の事情や本人の将来の希望などを含めて推薦を得たものはその推薦書。

⑦ 選考料 一〇、〇〇〇円（現金または為替にして送金のこと）

三、願書受付期間
昭和六十一年十一月二十一日（金）より昭和六十二年二月二十日（金）（当日の消印のあるものは有効）までの期間。

四、選考・発表
願書の受付締切後、書類について選考し、その結果を二月二十七日（金）に発表する。

五、入学手続
合格通知を受けたものは、十日以内に所定の入学手続きを完了すること。

六、入学式
昭和六十二年四月十五日（水）

七、諸経費
① 納付金（下表）
② 食 費
③ 研究旅行積立金

④ 月額 一、五〇〇円
⑤ 奨学金貸与制度
学費支弁困難なものは、下記の奨学金を利用することができる。
鯉洲学園奨学金
月額 一〇、〇〇〇円
全国農協中央会農協職員養成奨学金
月額 一五、〇〇〇円

備 考
① いったん提出した入学関係書類や既納の授業料その他の納付金は、いかなる理由があっても返還しない。
② 学園要覧・願書など所定用紙の請求

は、五〇〇円（切手でもよい）を封入して、鯉洲学園教務部または農民教育協会に問い合わせること。

財団法人 農民教育協会
東京都北区西ヶ原二丁目二六番三号
郵便番号 一一一四
電話 〇三一九一〇一七〇二七

鯉洲学園
茨城県東茨城郡内原町鯉洲五九六五
郵便番号 三一九一〇三
電話 〇二九二一五九一二八一一

納付金 (単位：円)

区分	入学手続時	前 期	後 期	合 計
入 学 金	150,000			150,000
授 業 料		115,000	115,000	230,000
教 材 費		7,500	7,500	15,000
施設維持費		50,000		50,000
図書整備費		5,000		5,000
合 計	150,000	177,500	122,500	450,000

四十周年記念事業による 学園教育施設の整備具体化

未応募の皆さんご協力を

去る五月三十一日、常任委員会を開催して、四十周年記念事業の一つである学園教育施設整備支援について協議いたしました。

その結果、図書館両翼の木造建物を民具他陳列室、会議室、教室に改修したいとする学園の意向を受けて、本会としても支援することに決定いたしました。

記念募金の状況は別表の通りで、昭和六十一年七月十五日現在、一千一百三万七千二百七十円になっており、そのうち七百万円を学園教育施設整備にあてることにしております。

既に学園に対し本会としての意向をつたえ、学園はこれをうけて、建物の具体的な改修計画書を作成、近く本会にこれを提示、建築業者を選定のうえ着工することになっております。

学園で検討した改修計画によると、木造建物二棟のうち南側の一棟は、東側の旧総務教務事務室だった部分を民具等陳列室に、西側の旧講師室会議室の中央間仕切りをとって大会議室に、西側の一棟は元の教室に復元、但し、東側は小教室二つに改修することにしてあります。建物の屋根や外装は記念

建物としてこれまた復元を重視して修理にあたるとしております。

昭和四十七年、諸施設の配置計画を学園に意見具申してから十四年を経過し、本館に相当する総合教育棟が建設されましたことは既報の通りであります。それが、それとの関連で機能的にもキャンパスの景観上も改修は急務で、正に意義ある四十年事業といえましょう。

学園創立四十年を記念し、育林事業学園教育施設整備支援、学園寮史の編集発行の三つをとりあげ推進してまいりましたが、それぞれ不満足な点はあるものの寮史の発行事業を残して一応の成果をみる事ができました。

ここに協力いただいた会員各位に感謝の意を表すと共に記念事業終結のご報告は次号でいたすことを申し添えます。
(鯉淵学園同窓会事務局)



期別募金状況 (61.7.5現在)

期	人数	金額(千円)	期	人数	金額(千円)
1	16	208,000	25	9	90,000
2	54	770,270	26	8	90,000
3	40	3,479,000	27	14	140,000
4	37	570,000	28	9	88,000
5	33	510,000	29	9	93,000
6	12	170,000	30	5	50,000
7	32	393,000	31	3	30,000
8	25	340,000	32	7	70,000
9	35	460,000	33	7	70,000
10	14	250,000	34	4	35,000
11	16	340,000	35	3	30,000
12	10	130,000	36	10	110,000
13	23	270,000	37	9	105,000
14	18	190,000	38	16	160,000
15	14	150,000	39	6	60,000
16	21	210,000			
17	14	230,000	通 1	3	30,000
18	11	113,000	2	1	10,000
19	12	170,000	3	4	50,000
20	7	70,000	4	3	30,000
21	11	140,000	5	1	10,000
22	9	85,000	山形置賜地区		45,000
23	20	243,000	合計	630	11,037,270
24	15	150,000			

支部別募金状況 (61.7.15現在)

支部	人数	金額(千円)	支部	人数	金額(千円)
北海道	24	300,000	京都	11	120,000
青森	6	70,000	大阪	3	30,000
岩手	27	300,000	兵庫	10	110,000
宮城	12	120,000	奈良	8	80,000
秋田	11	110,000	和歌山	3	25,000
山形	11	165,000	鳥取	8	120,000
福島	15	150,000	島根	2	20,000
茨城	112	1,400,000	岡山	2	20,000
栃木	18	250,000	広島	13	250,000
群馬	15	160,000	山口	19	223,000
埼玉	16	200,000	徳島	3	30,000
千葉	25	310,000	香川	5	90,000
東京	24	445,000	愛媛	3	30,000
神奈川	17	3,160,000	高知	4	40,000
新潟	23	530,000	福岡	4	40,000
富山	12	140,000	佐賀	5	60,000
石川	3	50,000	長崎	4	40,000
福井	16	190,000	熊本	3	30,000
山梨	5	80,000	大分	2	20,000
長野	45	475,000	宮崎	10	110,000
岐阜	8	90,000	鹿児島	10	130,000
静岡	6	60,000	鹿儿島	8	80,000
愛知	8	150,000	沖縄	8	80,000
三重	13	70,000	学 園	14	270,000
滋賀	4	40,000	2 期生会	630	54,270
			合 計	628	11,037,270

兵庫県支部会に出席して

坪野敏美

五月二十四日(土)午後、神戸市内舞子ピラにおいて兵庫県支部会が開催されました。栗山支部長以下二十六名、しかも他県支部会に比べて若い期の出席者が多く、大変盛会でした。

今迄の支部会は、支部長と主だった会員の話し合いで開催してきたことでしたが、今支部会では立派な支部規約を制定され、今後は規約のもとに支部運営がされることになりました。会費は年額一人二千円(本部会費千円を含む)の案を、四月十九日の同窓会大会の決定にもつき「会費は年額一人二千五百円(本部会費一千五百円を含む)」に修正可決していただきましたが大変恐縮致しました。

また、新役員に支部長足立優(7)、副支部長加藤整(10)、事務局長住吉達男(17)、同次長田中義治(23)、事務局員を各地区一名宛計七名、顧問にこれまでの支部会に貢献のあった栗山要(働)、加藤信二(5)の各氏を選出し、新支部長による運営方針①名簿整理の完全を期す、②年一回親睦会を開催する。③本部との連絡を密にすることを可決されました。親睦会では、各人の仕事を聞いてまわりましたが、その活躍振りには感服するばかりで、小生大いに元気づけられました。また若い卒業生から、仕事

でお世話になっていた方が先輩だったことを今日始めて知り、今後も遠慮なしに指導していただける気持になった。という話を二件聞き、今後の支部活動に大きな期待をして帰国しました。

同窓会役員名簿
七月三十日出来

頒価 送料共二、五〇〇円

今回の会員名簿発行にあたっては各支部代表者のご協力がありました。また学園教務部職員のご協力もありました。

佐々木次雄氏 農学博士の称号を授与される

佐々木(旧姓下山・三期)さん、おめでとございます。佐々木さんは、二十三年四月、学園を卒業と同時に現在の東北農業試験場栽培第一部に勤務になり、水稲病害研究に従事され、五十三年九月、請われ野菜試験場盛岡支場病害研究室長にご栄転、現在も野菜の病害研究にご精進されています。

た。各位に対し厚く御礼を申し上げます。

支部の中には地域別名簿まで作成し組織の充実をはかっている支部があります。

転居先不明で返送されるものが相当数あります。各自住所変更の際は必ず本部事務局までお知らせ下さい。

東京支部の会員に住所不明者が目立ちます。支部会員数約百五十名のうち不明者は約五十名です。同期で住所等おわかりでしたらお知らせ下さい。

発行部数は一、二〇〇部です。希望者数の状況により品切れもありますので早目に御注文下さい。

同窓会費納入についてお願い

先の大会において、大会報告にもありますように、同窓会会員単年度一、〇〇〇円、二年度分二、〇〇〇円を単年度一、五〇〇円、二年度分三、〇〇〇円に値上げすることに決定いたしました。本会の財政は、決算書でもおわかりのように、基本金会計からの借入れによってやりくりしており、現状の納入率が続けば、困難に落ち入ること必至です。

つきましては、以上のことをご理解いただき、昭和六十一・六十二年度会費三〇〇〇円を納入下さるようお願い申し上げます。

アンケート調査にご協力を

先般、卒業生各位(23期から39期まで)に卒業後の活躍の状況を把握して、今後の教育に活してゆきたいと考えてアンケート調査をお願いいたしました。が、回答率が低いため現在集計をみあわせております。

お忙しいところ甚だ恐縮ですが、調査にご協力いただき、至急ご返信下さるようお願い申し上げます。

鯉渕学園教務部